



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

5月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2014年(平成26年) 5月1日(木)

NO. 153

倫理文化講演会

「家庭のちから」

五月十八日(日)

午後一時

ホリデーイン・トーレンス

荒木良仁次席

あらきよしまさ



仲の良い家族を見ると心がなごみます。暖かい幸せな気持ちになります。私たち倫理者は、回りに倫理を広め、みんなに幸せになってもらわなくてはなりません。

フライヤーがたくさん出ました。配りましょう。お声を掛けて講演会に来て頂きましょう。皆さん、お友達と一緒に来てください。

文化講演会実行委員会

実行委員長

橋勝雄

実行委員

川田薫

尾崎勝宏

門園美枝子

前田グレース

飯田隆

梅本豊造

実行委員の皆さんの下、準備は着々と進んでいます。私たち会員は、常にフライヤーを車に置き、機会を逃さず手渡せるようにしましょう。講演会を知らせ、お誘いすることが、会員の務めです。

新刊書

『家庭のちから』

丸山敏秋著

大切なものは何ですか？

日本の家庭の機能が、劣化してきたといわれます。人間社会の最も基本となる営みは家庭です。

家庭そのもののあり方、家庭をめぐる現代の諸問題を考察し、強靱な家庭を築くために、実行のヒントを示します。梅本和子さん(図書係り)にお申し込みください。

和合の要諦(六)

ここに人間生活の絶対法則(倫理が発見されくると、目標をたずねあぐんで、どうしてそこに行きつこうかとあえぐ必要がなくなる。ただまっしぐらに、今の仕事、今の方向を進めばよい。たとえば、自分は船に乗って、与えられた一部の仕事をしている。火夫であり、炊事夫であり、倉庫係である。ただその務めを力一ぱいやつておれば、各自のつとめの忠実さにつれて、目ざす港に正しく速やかに到着するのである。港に着くことは、火夫・炊事夫・倉庫係にとつては、何の考慮もいらぬことである。一しよに見事に上陸ができるのである。

こうした人生の方向、人の個性、世の成りたちが明らかになって、ここに初めて教育の基礎が確立する。教育の基礎は、ここに発見された新しい倫理である。教育は、この絶対倫理にどっかりと乗って、まっしぐらに進む外はない。倫理は、学説ではなく、主義でもない。天地を貫き古今に通ずる人類の生活法則であり、この法則の上に教育があり、真の教育が可能である。

(『倫理』734号)

真の「学び」とは

「学びは真似ることから始まる」といわれます。『大辞泉』によると「まなぶ」は「まねぶ」と同義語であり、「まねをする」と記されています。

幕末に活躍した福井藩士・橋本左内は、大人になる心得として、「稚心を去る」から始まる『啓発録』を十五歳の若さで書き上げました。「学に努む」という項目では、次のように述べています。

「学ぶ、ということとは、習うということに等しい。すばらしい人物の良い行ないを手本として慕い、その人の行き方に劣らないように努めることこそ、何より大切な学問である」

人はそれぞれに特技や長所があります。上司、同僚、部下の中に、自分より優れたものがあるはず。その優れたものを、謙虚に習い、真似てみて、自らの努力で身に着けることが真の「学び」でしょう。まずは、学ぶ意欲を持つことが自己向上の鍵です。互いに学び合い、日々の業務に活かしてまいります。

(『職場の教養』二月)

純粹倫理勉強会

四月十二日（土）午前十時、相馬紀子専任講師を迎えて勉強会が行われました。

「ぜんこかいかんの原理」とはどんな苦難にあつても、「これでよい」ではなく「これがよい」であることです。

山形県出身で気さくな相馬紀子先生は「全個皆完の原理」とはこのように話されました。その意味がよくわからずはじめてから私には難解でした。

この原理は「しおり」の第一（今日は最良の一日、今は無二の好機）、第二（苦難は幸福の門）、第八（明朗は健康の父、愛和は幸福の母）の各条を引用して説明されましたがまだむずかしいです。最近の痛ましい大災害の当事者の方々にむかって「これが良い」と言ってしまったら大変なことになると思ってしまったからです。（これは私の勘違いかもしれません。）

でもわかりやすい話も沢山ありました。伊勢神宮の体験談、先生自身の富士研での指導員勉強会で恥をかく経験を積み重ね

たこと、更に、気づいたら行うや気づいたら止めるなどは楽に聞けました。ひとにあわせる態度をとり、不自然な生活を改め、徳を積むと、言葉使いが変わりさらに心も変わるといわれたときは私自身にもよく当てはまるのでハッとしてしまいました。

続いて大事な内容。病気になるということも原因があつて起きたのであるから当然で自然であり、それ自体、完全であるという解釈。苦難としてその原因があつて起きたことなので「これが良い」として受け止めるのが正しいと理解することです。苦難には意味があり、生活の不自然や心のゆがみの映った危険信号とする見方です。

苦難を有難いと喜んで受け入れ、このままだともっとひどい目にあう危険信号であり、自分を一歩向上させようとしている大自然からのお知らせであり、教えであるかと悟るならば、この苦難は美となり、光り輝いてくるという高度なものと考え方です。

かつて丸山敏雄先生が投獄され、連日厳しい拷問を受けた大変な経験から無事生還して、それに

よって体験、感得されたと思われる苦難観は今日でも通じる貴重な教訓であると分かりかけてきました。私は「全個皆完の原理（これが良い）」を尊敬します。（大竹信雄記）

倫理子育てセミナー

四月十三日（日）午前十時より倫理USA会場において、相馬紀子生涯局専任講師を迎えて子育てセミナーが開催された。

当日は、三十八名の参加者があり、相馬講師の自らの体験を踏まえて、子育て、親子の問題について分かりやすくご説明をされた。

「あなたは、わが子が可愛いですか。」の問いかけから始まりました。誰もがかわいいと答えるでしょうが、可愛くないという親は、自分も子どもころ親から愛されていなかったからである。真っ先に自分と親の問題を解決しなければならぬ。

子育ての最も大切なことは、「愛する」ことであり、きれいなものを見て、感動する心を育むことである。母親に愛された記憶があれば、人間は誰しも生き

る力が湧いてくるものである。子どもは、三歳児までに、親に大切にされている、大事に育てられていると感じるものである。

子どもを変えようとするのではなく、子どもに寄り添ってあげることにより、自分が大切にされている安心感を持つものである。

人に優しくするためには、自分に優しくくだんなことでも受け入れることが大事なことがある。自分を受け入れることができた時こそ、他人を受け入れることができる。これを「受容」という。自分自身を好きになることが、人間の根本である。ありのままのじぶん、ホッと生きる生き方をすれば、家族みんなに安心感を与え、親子の絆を深めることに繋がる。

最後に、花はバラではなく、すみれの花でよい。と結ばれた。（参加者三十八名）

（川田末子記）



朝の講話

四月十三日（日）午前八時半より倫理オフィスに於いて倫理モーニングミクス―「朝の集い」を行いました。

本部より相馬紀子専任講師をお招きし、第二条「苦難福門」について御講話を頂きました。

講師は御自身の体験を元にされ、わかりやすく「苦難福門」をご説明くださった。

九州出張の折出会った二歳の子供を連れとお母さんの話をされた。その二歳の子供は心臓に穴が開いたままで生まれてきた。お母さんは不安の気持ちで一杯であった。新生児室でまだ名前も無い赤ちゃんを見たとき涙がポロポロと出て仕方が無かった。その時看護婦さんがお母さんに問われた「心臓に穴の開いている子供はいらないですか」と。お母さんは「いいえ」と答えたそうです。お母さんは世界で一番大切な子供と思えたそうです。言葉の力は大きい。ある一言で（一）マイナスの心を（十）に変えることが出来る。絶望の中に居る時でもプラスの

言葉をかけることによって将来に希望が見えてくる。

講師のお友達の御主人が脳梗塞の後、車椅子生活を長年されていて側で介護をされていたお友達は長い介護の為疲れており、いつも講師に愚痴を聞いてもらっていた。

ある日お友達が何時に無い明るい声で電話をしてこられた。そのお話は…御主人の一ヶ月健診で病院に出かけた時、出会った勇氣と優しさを備えた若いお母さんと赤ちゃんの話であった。ご主人は子供が大好きな人であり、その赤ちゃんを見るとかたわらに接近しようとする自由にならぬ手を伸ばした。その時若いお母さんは「赤ちゃんを抱っこ出来ますか」と声を掛けられ御主人の膝に赤ちゃんを乗せてこられたそうです。御主人の顔が笑顔一杯になり目が輝いたそうです。

世の中にこのような優しい心を持った人がいるのかとお友達は感動された。いつも人の目ばかりを気にし、車椅子を押して外出することさえもいやだと思いきや嫌っていた自分の心の間違い

を若いお母さんの勇氣ある優しい態度で気づかせてもらったという嬉しい話であった。「感動は人に生きる力を与える」

吉田松陰は「感動、感激することの出来ない人はその人の結実をもたない」と言われた。

講師はお姑さんの長い介護を通され、ご主人に講師のつらい気持ちを汲んで頂き、合わせて頂いたおかげで介護を乗り越える事の出来た喜びの話がされた。

講師は「いつも天使のような気持ちで毎日を過ごしたい」のが希望であったが長い介護をする中で「どうして私が」と暗い気持ちになり、お姑さんの洗濯物をしながら涙することもあった。段々とお姑さんのお見舞いに行く事さえも辛く思える様になった。その時ご主人は単身赴任をされていた。そんなある日ご主人が講師を連れ、赴任先に帰る時、何時もお母さんの病院をお見舞いして帰る事が常であったが、その日は病院に立ち寄りせず赴任先に直接帰られた。御主人は講師の辛い

気持ちを汲み取り私の気持ちに合わせてくれたのだと思いつた時、講師の胸が熱くなる思いで一杯になったそうです。その時私は主人に合わせられたのだと思つたと話された。合わせられることで気持ちは変わります。その後お姑様の介護を気持ちよく側に寄り添いできた喜びを話された。

人はこうなりたいと強く思うことで、誰かを通して与えられる。強く思わないと希望はかないません。苦難に出会っても、何時もプラスの心プラスの言葉でにつこり笑って取り込む時、幸福な人生を送ることが出来ますと強調された。感動を覚える例話を通して細やかに講話を下さいました。

（出席者 三十一名）
（梅本和子記）

※長谷川松子さんから「苦難福門」についていろいろと教えて頂き、講師は、人は感動することが大切だと話された―という記事を頂きました。ありがとうございます。

おめでとうございます

『秋津書道』四月号

競書

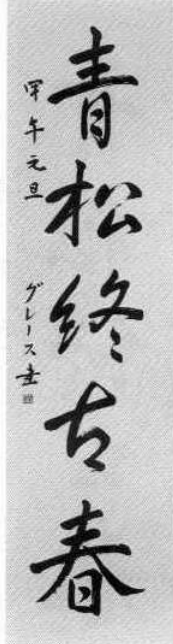
- 入選 滝川政和 芸術部 (碧の部)
- 一席 咲田静子 高等部 (東京)
- 入選 梅本豊造 々々
- 三席 前田グレース 一般部 (東京) 行書
- 四席 草野律子 々々
- 入選 竹内康子 一般部 (東京) 楷書
- 入選 大竹信雄 々々
- 入選 高橋ひとみ 々々
- 入選 高橋忠彦 々々
- 入選 若狭邦彦 々々

調和体

長谷川公子 高等部 (東京)



1席 咲田 静子
布置よく草書らしい流れのある見事な作品です。



3席 前田グレース
墨色良く線質も美しい。丁寧に運筆され余白がよくとれている。

おめでとうございます

『しきなみ』四月号

群螢集 (西東京・海外)

- 入選 草野律子
- 月曜の朝ラジオより三分間倫理を紹介する声明し

v v v v v v v v v

書道、短歌を始めませんか

自分の人生の歩みが残せません。毎日の生活に張りが出てきます。視野が広く、心が深くなります。自分が確実に変わります。幸せな気持ちになります。

「生活の浄化と個性の発揚」が基本です。すからね。無理せず楽しく学びます。

しきなみ短歌 第一日曜 トーレンス

秋津書道 第四土曜 オレンジ郡

秋津書道 第四日曜 トーレンス

作品展示

文化講演会でしきなみ短歌、秋津書道の作品を展示します。どうぞご覧下さい。

しきなみ短歌

昨夜(よべ) 撒きし追儼(ついな)の豆の二つ三つ窓より入り来る陽ざしに転(まる)ぶ 門園美枝子

雨あがり輝く青空すかさずに屋根職の夫仕事に向かう
ホン史子

「伸びてるね」朝一番の我が仕事ダイカンドラと小さな会話
松永典子

レモン木の根元に穴掘り顔埋め眠りをむさぼる陸亀「金太郎」
草野律子

エンデバー何十回と大気圏にその身を焦がし地球へ帰る
摺木洋子

あたたかな風に吹かれてふわふわと飛んでいるよな春の夕暮れ
松元依子

桃の花葉に先立ちて咲き初める楚楚たる様に春の雨降る
滝川歌子

ひなまつり雪とさくらにひびく曲昔しのぼる津軽じよんがら
奥本洋子

火口より赤き蒸気の噴き出でて静寂の闇にほのかにゆれる
杉野和子

今の世は物質文化にあふれだし節約などは古語の世となる
長谷川公子

空を見つつ離れ離れで暮らしては妻淋しがるとじーちゃんの言う
塩出笑子

短歌より子らの名前の読み方に時の過ぎゆく子供短歌集
伊澤潤子

陽がのびて気づいてみれば午後六時短い冬もう終わりかな
飯田隆

くしゃみして鼻水だした孫パーカー我の顔みて口開け笑う
梅本豊造

不思議なる縁にて出会いし友二人年に一度の訪米を待つ
梅本和子

電車内にビニール傘を置き忘れ小雨よけつつ歩む帰り路
矢口裕司